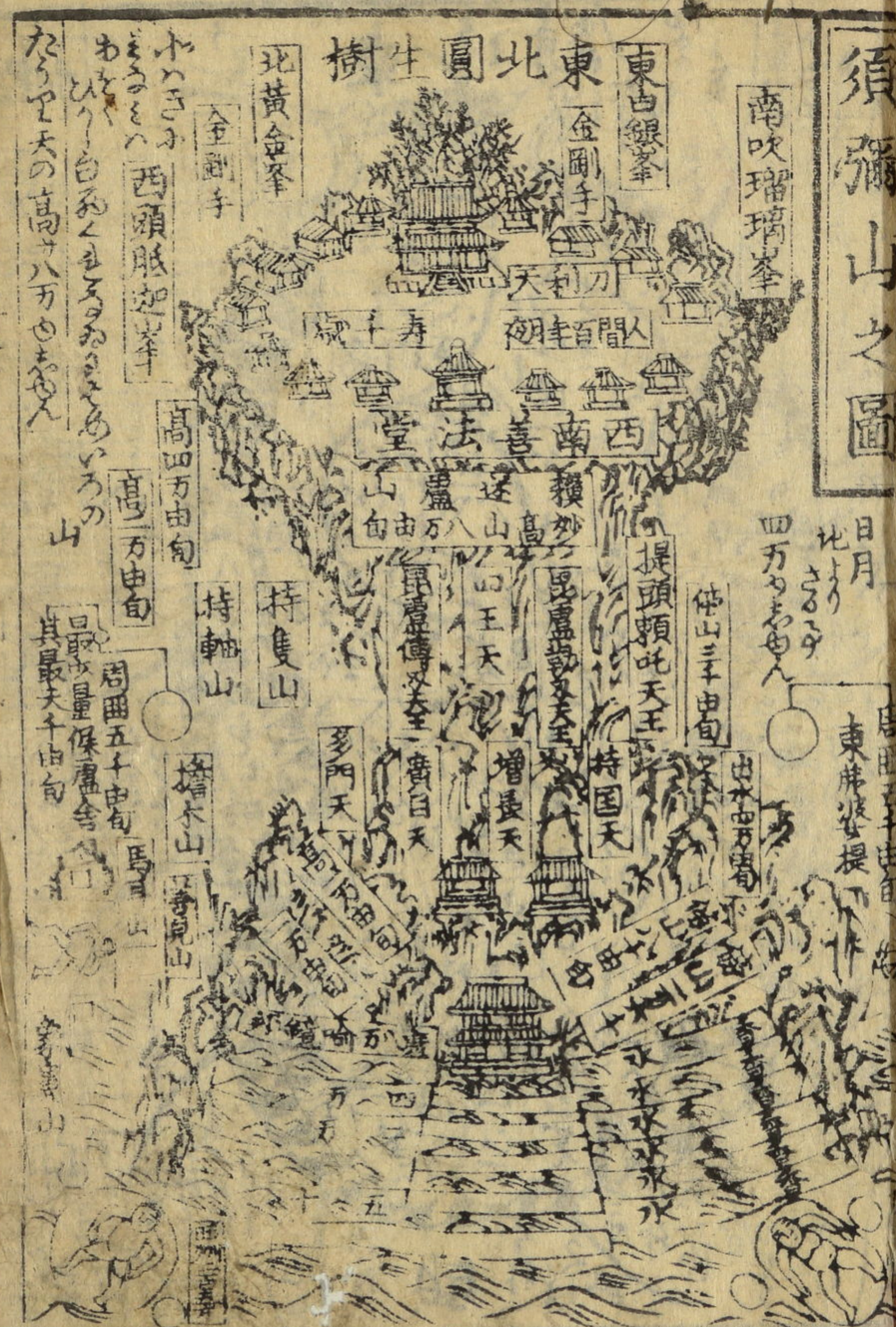
大雜書三世相

全

須彌山之圖


東北圓生樹
東白銀峯
南吹瑠璃峯
北黃金峯
西頗胝迦峯
金剛手
金剛手
忉利天
人間百年朝
壽千歲
西南善法堂
須彌山高八万由旬
持國天
增長天
廣目天
多聞天
持鬘山
持軸山
持雙山
提頭賴吒天王
毘盧遮那天王
毘盧傳文天王
山王天
佛山三千由旬
出水四万由旬
東勝神洲
南贍部洲
西牛貨洲
北俱盧洲
周圍五千由旬
周圍五千由旬
周圍五千由旬
周圍五千由旬
日月
北まわりする
四万ゆきめぐる

地底鯰之圖

六よう日生とり屋うの事

式とりやうい毎月何月とあ甚月のそーを朔日と定え二日三日とおやんさるべー

●	先勝日	正月 七月
⊤	友引日	二月 八月
◐	先負日	三月 九月
●	仏滅日	四月 十月
○	大安日	五月 十月
◐	赤口日	六月 十二月

うけむけを考る事

木性	火性	土水	金性
▲酉の年八月丙の日寅の時うけ丈卯の年と七年▲辰の年三月辰の日むけ丈入申のとしまで丈年	▲子の年十月子の日子の時うけ丈入午の年と七年▲未の年六月未の日寅時むけ丈入丑のとしまで丈年	▲午の年五月午の日午の時うけ丈入子の年と七年▲丑の年十二月丑の日丑の時むけ丈入巳のとしまで丈年	▲卯の年二月卯の日卯の時うけ丈酉の年と七年▲戌の年九月戌の日戌の時むけ丈入寅のとしまで丈年

うけ丈入て七年のあいだ
むけ丈年にしのとひ酉まで

親戚九族服忌令圖

養父母 いとま三十日 ぶく百五十日
[illegible] 実父母のごとし

継父母 いとま二十日 ぶく廿日　夫の父母 いとま三十日 ぶく百五十日

夫 いとま三十日 ぶく十三月　妻 いとま廿日 ぶく九十日

父方

母方

高祖父母 いとま十日 ぶく三十日		
曽祖父母 いとま二十日 ぶく九十日	族叔父 [illegible]	族伯母 [illegible]
祖父母 いとま三十日 ぶく百五十日	従叔父 [illegible]	従伯母 [illegible]
父母 いとま五十日 ぶく十三月	叔父 [illegible]	伯母 [illegible]
己	兄弟 [illegible]	姉妹 [illegible]
子 [illegible]	甥 [illegible]	姪 [illegible]
孫 [illegible]	従甥 [illegible]	従姪 [illegible]
曽孫 [illegible]	族甥 [illegible]	族姪 [illegible]
玄孫 いとま三日 ぶく七日		

族叔父、従叔父、族伯母、従伯母、従兄弟、族従兄弟、従弟、族従弟 [illegible]

主君 [illegible]

師匠 [illegible]

養子 いとま十日 ぶく三十日

聞忌 [illegible]

産けがれ [illegible] 父 七日 母 七十五日

血あやし 父 七日 母 十日

[illegible] 父 五日 母 十日

[illegible] 立合 一日

三世相十二支生年善悪之事

○子の年に生まるる人は [illegible]

○丑の年に生まるる人は [illegible]

[illegible]

▲[illegible]

▲[illegible]

▲[illegible]

▲[illegible]

▲[illegible]

まことのあいそう[illegible]人のちからとなる事もあり[illegible]

[illegible]六十二三七十八まで命あるべし[illegible]

[illegible]一代の内[illegible]

▲ひのとの年に生るる人は[illegible]

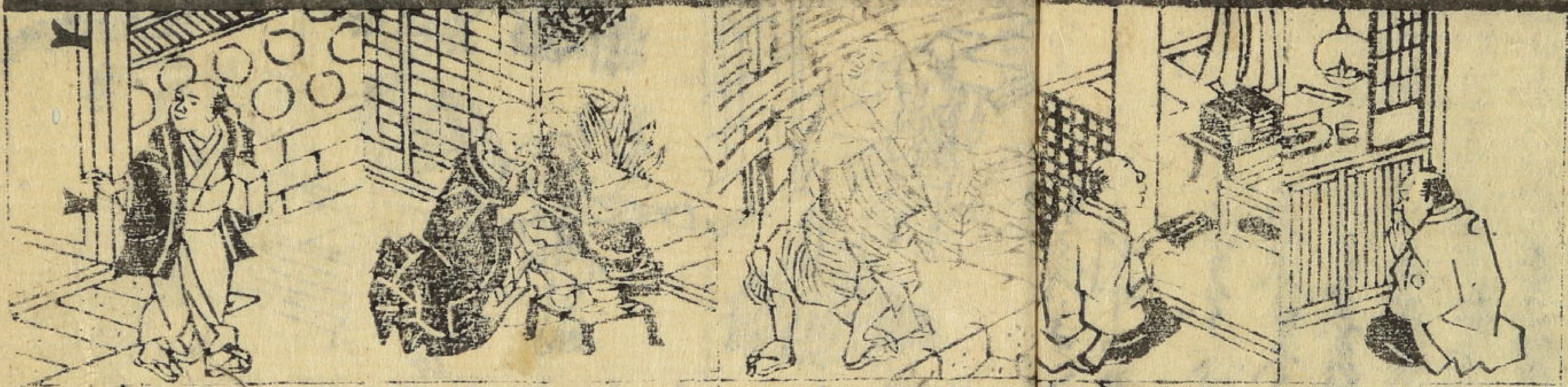
[illegible]この人は[illegible]

[illegible]一代の内[illegible]

▲ひのえの年に生るる人は[illegible]

[illegible]一代の内[illegible]

[illegible]一代の内[illegible]



▲いのとしにむまるゝ人ハ前世にて[illegible]白米一石八斗を施
[illegible]今生にて[illegible]この人の今生にて[illegible]今生にて[illegible]
の[illegible]一生の[illegible]
て[illegible]子ハ[illegible]てその[illegible]
[illegible]八十[illegible]
ハ[illegible]二代の[illegible]

▲うまれ月ぜんあくの事

▲正月にむまるゝ人ハ[illegible]仏[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

▲二月にむまるゝ人ハ[illegible]
[illegible]
[illegible]父母[illegible]

▲三月にむまるゝ人ハ[illegible]
[illegible]父母[illegible]
[illegible]
[illegible]

▲四月にむまるゝ人ハ[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

▲五月にむまるゝ人ハ[illegible]
[illegible]
[illegible]父母
[illegible]

▲六月はるくへ
▲七月はるくへ
▲八月はるくへ
▲九月はるくへ
▲十月はるくへ

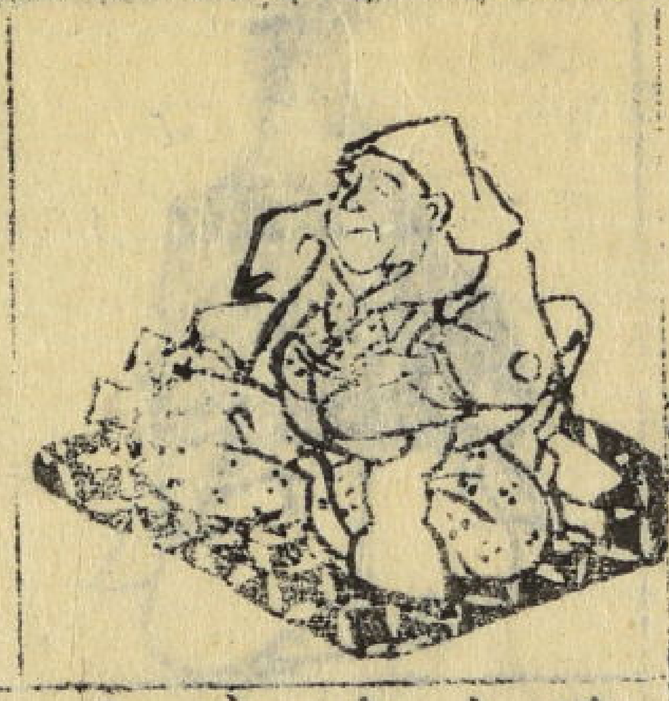
▲[illegible]

▲生れ日よしあしの事

▲[illegible] ▲[illegible] ▲[illegible] ▲[illegible] ▲[illegible] ▲[illegible]

▲[illegible]

▲[illegible]



▲[illegible]

▲[illegible]

▲天一八日にうまるゝ人ハおとなしく下ハ波女にえんあり女人ハおもふ
ことかなふことありといへどもあまりうまれつきよく
してのちにさいはひありべし　まことにいのちながく
まれなるよろこびありてしあはせよし　そのいのち
ながかるべし　そのほかなにごともよきかたへすゝむべし

▲天一八日にうまるゝ人ハおんなにえんありておもふ
ことハあそびにふけりてよからぬこと多し
きりやうよくしてものごとにきようなれども
うへのものにしたしまれずしてこゝろにくるしみあり
よくつゝしむべし

▲うすれどきせんあくの事

上旬六	三五午十 ねうしむまとり	二四又 うし羊卯酉
上十日	宮八 八ばんめ	
中旬六	二六午十 とらさる卯酉	三四又 とらさる
中十日	宮八 ねうしむまとり	
下旬六	三五午 とらさる	二四又 ねうしむまとり
下十日	宮八 うし羊卯酉	

▲うまれつき心まかせなる人ハしあはせよくしてかねもちになるべし
あたまの中ほどにきずあるか又ハしやくのたぐひあり
わかきうちハおもふこと心にまかせずおやのゆづりをうけずして
身をたてるなり　あとのほどハよくなりてしあはせよし
あくじをせずしてしんじんあるべし

▲うまれつきよき人ハもちものよくしておやをうやまひ
おやにかう〳〵なるものなり　しかれどもいろごとにまよひ
うちのものにふそくありてつゝしむべし
としよりてハなにごともこゝろのまゝなり
よき人なるべし

▲うまれつきよき人ハまごころありてしんじんなり
かねもちになりてしあはせよし　しかれどもなんぎありて
うれひあるべし　年よりてハさいはひあり
おんなにかゝりてそんすることあり　よく〳〵つゝしむべし
まことにしあはせよき人なり

▲うのとんぶうるくんぶたちわるくんぶ
しよふまちくてしたちまちまちまちくてくてくて
そのりふまちむとあれバとりこぐらこまりそんあつあつて
仕合ちくしとのあんぶ　ちびとちをうけまつりそせけバ仕合
ちくまちくぐちやくまちくぶ

▲ちのとんぶまちくんぶちちちくちくちくまちり
小まちふちくちくちく

▲[illegible]

▲[illegible]

▲[illegible]

▲十かん寿命吉凶の事

○きのえのとし　きのとのとし
○ひのえのとし　ひのとのとし
○つちのえのとし　つちのとのとし
○かのえのとし　かのとのとし
○みづのえのとし　みづのとのとし

▲[illegible]

四十八九にてしんくの事ありこれよりのちよくなる六十五六七十六まで命あるなり
のちの日気まつりはやらんおこたりなくまつりしんじんすべしてよし

▲きのとのとしのうまれの人はよくはたらきてわかきうちはあくせくあれども命せし
ただしんじんをこころざしてかたく人にあいそうあり但なにかにまよへるなり
のうまれの人は父母のえんうすくして他国にてくらしなり秋の
うまれは人より日の食米一斗あり世人の事をちうくにして世にはなれて秋のう
きびしきみやく人をけきすくなく身をかたくもちてよくすべし
よくしんじんしてかならずしあわせよし十二三にてあやのふ
けふの事をおもひすごすことあり十四五の人にうらやまるべし人にて男女のく
せあり三十にて人の日にはなにかと男女ともにまよふべし二十三
あり四十二三にてまよふことあり三十三四にてよくなるべし
あり四十二三にてまし六十二三まで命あるべし
六十三まで六十八十二の十月まで命あるの日よりすべし世しずまらのきとまるべしして

▲ひのえのとしのうまれの人はあくまでもまじめにしてしんじんあつくしてあくまでくらし世へ
まうけにあいそうれしきことあり但しはかなきことにてかなしむこともあれどもよくこころえて世へ
ゆくえわかれてくらすべしうまれつき日の事をかたくもちて身のうまれは大福の秋のうまれ
はひとりわかれのうまれは他家に住よし日の出ること日本国二斗あり食米は春のうま
あまくさかりけのもちものよろしくて世には大とはいふべし冬のうまれは人に
まけず人に出世するおのれありつよくすべし夏のうまれは住所定まらず○あまり
てうちまもとせざるを男女もまよひありて世七八にてすこしひまあるもちて金のまよひをうる
ろくにありてまよふことは四十にてよしかなふることなりて世すぎ一生すでに二十三にて
かねもちのにんあるべし

▲ひのとのとしの人はうまれつきまことあるをうとまずしてよくまことある
ありて日の食米一斗あり春のうまれは病あれども身上よし夏のうまれはよくきくしてよし
秋のうまれは男のうまれつきまことにて冬のうまれは他家に住よし女はあいのこまりて
のうまれのうちはかならずしも一生まてこの国の外世にいでてまよふもとなるべし二十あ
ちちはゝに孝行ありてよく人になつてきつきにねがひをまするなり二世あん

らく[illegible]べし[illegible]年[illegible]

人は[illegible]

あり十七八[illegible]男か女か[illegible]十三四[illegible]

三十六か三十三[illegible]廿四[illegible]三十七八[illegible]十二[illegible]

次の[illegible]七十八の正月[illegible]

▲つちの[illegible]八十[illegible]

[illegible]

▲つちの[illegible]

[illegible]

よそてしられしあらそひごとありそれ〳〵ハ用心あるべし二十三四五にて病ある事あり四十六七八

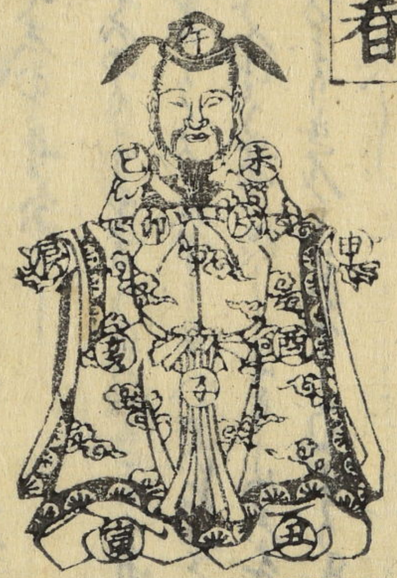
まぎる事あり又五十一二にて大病あり六十二三にて久しく病む事ありうたがひあるべし神をおが

むべし六十二三にて信心すれバ八十二三まで長命なるべし其のち代の内まづ〳〵よろしくよきなり

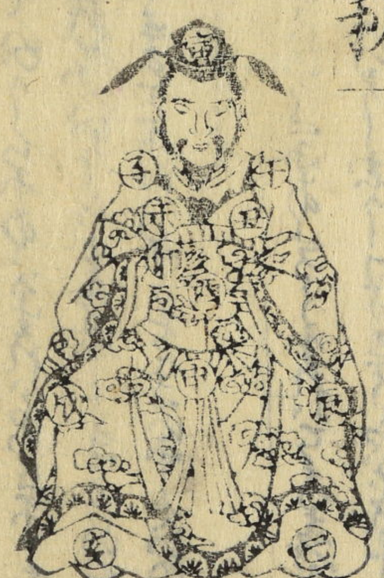
[illegible]

四季四皇帝之占

春



秋



夏

冬

▲こゝろのうちにあることをまれにあらはさずしてこゝろのうちにかくしたる人をうやまはれて人のうらとなるべし　きうのものゝこゝろをもてなすまことにぶしやうにして人のうちにあるべし

▲こゝろのうちにふかくこゝろをまれにとゝのへたる人をのづからとうにつよきこゝろをもちたる人をかくしきれあり　年さをもつべし　ちからの只賢をもちゝたひをきをもつとゝのへたる人をあるべし

▲こゝろのうちにあることをまれにあらはさずしてこゝろのうちにかくしたる人をまことのをとこゝろをもつべし　ようじんのあるべし　わるものをとこゝろをもつべし　まことをもつべし　まことをもつてこゝろをもつべし　ようじんをもつてこゝろをもつべし　ようじんのあるべし

▲こゝろのまことにふかくこゝろをまれにあらはさずしてこゝろのうちにかくしたる人をこゝろをもつべし　ひとをもつてこゝろをもつべし　こゝろをもつてこゝろをもつべし　こゝろをもつてこゝろをもつべし　こゝろをもつてこゝろをもつべし　こゝろをもつてこゝろをもつべし

▲こゝろのまことにふかくこゝろをまれにあらはさずしてこゝろのうちにかくしたる人をこゝろをもつべし　こゝろをもつてこゝろをもつべし　こゝろをもつてこゝろをもつべし　こゝろをもつてこゝろをもつべし　こゝろをもつてこゝろをもつべし　こゝろをもつてこゝろをもつべし

▲こゝろのまことにふかくこゝろをまれにあらはさずしてこゝろのうちにかくしたる人をこゝろをもつべし　こゝろをもつてこゝろをもつべし　こゝろをもつてこゝろをもつべし　こゝろをもつてこゝろをもつべし　こゝろをもつてこゝろをもつべし　こゝろをもつてこゝろをもつべし

▲こゝろのまことにふかくこゝろをまれにあらはさずしてこゝろのうちにかくしたる人をこゝろをもつべし　こゝろをもつてこゝろをもつべし　こゝろをもつてこゝろをもつべし　こゝろをもつてこゝろをもつべし　こゝろをもつてこゝろをもつべし　こゝろをもつてこゝろをもつべし

[illegible]

▲十二うん吉凶の事

十二月八すいうん	胎	養	長	沐	冠	臨	帝	衰	病	死	墓	絶
木性	八	九	十	十一	十二	正	二	三	四	五	六	七
火性	十一	十二	正	二	三	四	五	六	七	八	九	十
土性	五	六	七	八	九	十	十一	十二	正	二	三	四
金性	二	三	四	五	六	七	八	九	十	十一	十二	正
水性	五	六	七	八	九	十	十一	十二	正	二	三	四

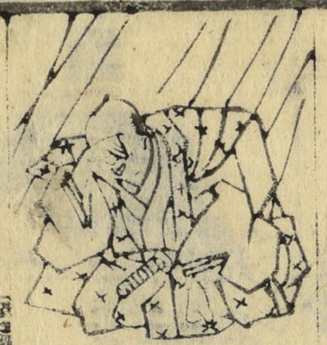
[illegible]

七十二●水性甲九八十一●
[illegible]

▲[illegible]

七十二●[illegible]●[illegible]

七十二●[illegible]●[illegible]



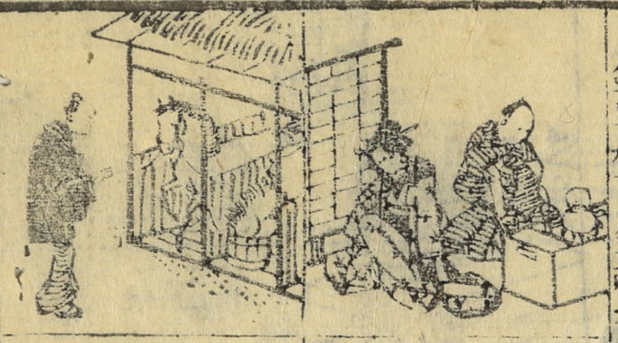
▲[illegible]

●[illegible]

六十二●[illegible]●[illegible]

[illegible]

▲[illegible]



五行相生

水生木
木生火
火生土
土生金
金生水

五行相剋

木剋土
土剋水
水剋火
火剋金
金剋木

○男女相性乃ち幸

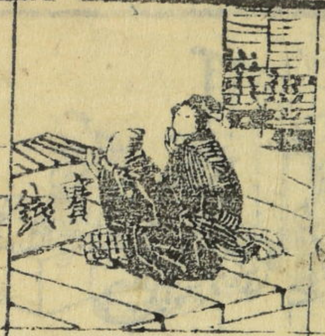
相生相剋ふるて一代の貧福吉凶さいはいのことを支書の数絡むたかのうらうら相生を考へて絡来るべし扨又相生なりともん元のしく相剋あれば相生の中の相剋

◐男木女木は勇敢なりと考へ木木をかさね林と成は性をそうといへども木ふ木枝をかくしの形をなしてはいかんかくしの幸こそ子二人あれど和睦まり考ふるに業和とのりて

歌　しらあるる紅もいろもれともるけらん
いなきのうちをきのむいなきを

○男木女火おのれ和の形をそう一ふん成紅のとうのをくぜつ幸のれどものちいは大福来り命もく半ばるを考へあるて富まきうり子七人まべし大ようう

歌　いろ〳〵のいろうる木のむきひるを
わりかまるるまるそうの〳〵



◐男木女土類をるとゝいへるこゝのうちの樹生和合乃
殖のるが色へ水土より木を生ず但男土女木なれば
紙宝ゝて牛るゝ者くゝの一但子ふ者んなり

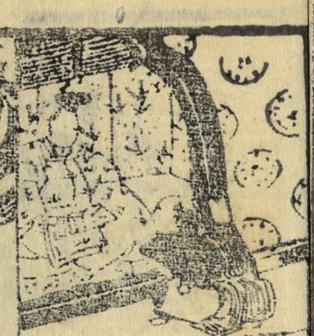
ゝ　いこの世こそきこの人ゝをもとれもこと
よあ川のゝとゝ一ゝ絲で

◐男木女金これも朝の内のお生まれ男女金乃木をもて
自性なる絶長刀又ハ数奥まも稽古て用をゝるまも形ゝ
子二人ゝ二人ゝ三人ゝ一倍ゝ伝ゝ為ゝ数ふゝくゝ一ゝ

ゝ　いのひとゝ一ゝとのゝこゝれもまゝるまも
者ゝをはゝゝとゝいゝゝまゝ

◐男木女水お生まれ男女水乃木を生ずるの意
きゝゝくの性まゝまゝ者ゝゝ一ゝ一ゝ一ゝを生ずるの意
あゝ氏神を信ゝ一ゝ

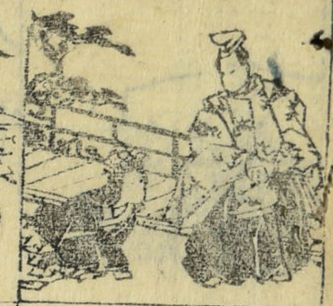
ゝ　わゝゝまゝの一二人が中ゝ一ゝ一ゝ
世ゝまゝゝる事ゝゝゝれゝゝゝゝれ



◐男火女木これも陰の性ゝ一ゝ一ゝ牛ゝ者ゝ子ゝを
一二人ゝ一ゝ男子ゝ一ゝ一ゝ一ゝ一ゝ一ゝ一ゝ一ゝ一ゝ
者ゝたゝくゝ人ゝふ者ゝゝゝゝゝ但不伝ゝれゝゝゝ

ゝ　ゝのゝ一ゝきゝくゝまゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝせゝを絲のふゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

●男火女火　火へ木の木ゝゝゝ一ゝ一ゝ一ゝ一ゝ一ゝ一ゝ一ゝ一ゝ一ゝ
性ゝゝ比和ゝいへゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ



○男女ともよりやをとずるおやまん和の理をたち
命長くさいわう者く但ちゃ〜ふつきうして大この
子のまこにして内二人のおや
ゑと　ほひそえて　ゑをふりくむをびて
若わかあきみのつそれがてきるよ

●男女あやまりとをくに和の理をたこ大こ
女男のいせいを知に食あつ者く食ふてまを人
内を人うるわるべ〜命かをうう

ゑと　内儀をきにほのうんかあれども
つがをひとまるまかあ〜

●男女木たりうと上ぜくを和と号しを大ふ
ろ〜子のまこ者てをそに食ふて祝宜とあ〜く
家門屋をうべ但ちんてつそれが去ほのいせよくるべ〜
ゑと　つちと木がそ人のほのるなを虫ほ〜ゑんど
いのまだ神のをくみあるなり

●男女小ぞあくと号して まを者あるをそ者の若
概義悪仏仏神を仏のみとあをとをとをを者とうく
もあり食ふも なるべ〜
ゑと　ほのうをそ〜いとをの〜きつう者い
ろろげのものふをを〜うを神を

●男女女比和と号して ほ〜そ〜者をうくも
のち〜食ふ者べ〜ほいと人を伝ともわりかあ
ろうひのをうひとをとをに〜ほ〜
ゑと　身をうをそれむをあのをとうをを
いるのひなきいうをあるをり

○男女食者ん和とがして大ゆ〜ざひをら
おかくれ人のまこ者を〜ほうひふうをかして者る女人
をべ〜伝仏ふくいをくうるべ〜
ゑと　みひげ〜二人ゲ中よう〜きて
さけのいぐとのをくとわる(ゑ

◐男士女ゑ天さいおやんの御ぞうれば
ふきんくされたるもの
かんぐつをそれば
ゑこ　つちあらくさ木の
いかりとれまハ生るまハ

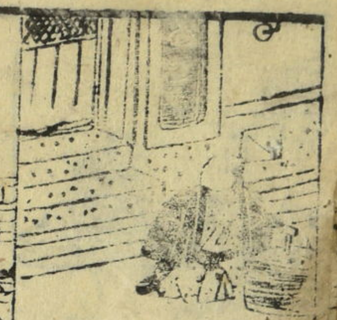
◐男金女木天けいと影ハおやんの御ぞうて
ぞ下ゑいろくも湯くたゑ
ゑこもつをふ屋まひとゑ大神をあくなるこ子ハ一二人
ゑ　うの中ま
つ御ふ白ゑ流のうげさ
ゑ御ぞ

●男金女火不ぞと影ーて
ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ
命もうしゑ
ゑ　むーう
つるみ　ゑひの屋む事も

◐男金女ふぞあくと影ーて
牛ちるゑんゑ命
ゑ　いーもむすびをめ
日ゑは城ゑて事ーうゑ

●男金女金ぜ和とゑとも隠のひとゑともちゑひて金ゑ金
ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ
事ちぐひ
ゑ　いーるゑんう新さわりのこの中は
ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ

○男金女ゑおやん和の御ゑて大きゑ
ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ
ーて上生ゑのまー
ゑ　いーもむ今もひーもの
ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ



○男あ女ホ者人和と呼ぶ　そうーざいあう　まく
ずいぶん人う又人あ　ぶーー　金ぎくらもいとまく　万う
ちうーまぐら　形見るるーべ　ぶーー　うべーー
家。　うの中ーーーうの　きのの　おわるんと
いれ　まきんるくらけうーど　分

●男あ女ホ天ホのと　呼ぶ　ちあ人のらくまう子から　天
ちべーー　仕ちくなくむ　金と　ぶーーざいぶうまくーー　て
大きふつろ
家。　うの中ーーかー　新ぶびーーきめをーーを
人ーーちーー　ちねー　身をそうーーむは

◐男あ女ホ不和と　呼ぶーーて　ちく　ちう　病ひと　ちげく
ざいあうくらくーー　ちっとおるーーまいはくまべーーつ　ぶく　病の
計とのりちゃうーー　くんるんまをんべーるべーー
家。　わーーれぜーーまれきされるうひもうー
分まんあちひのきへべせめーる

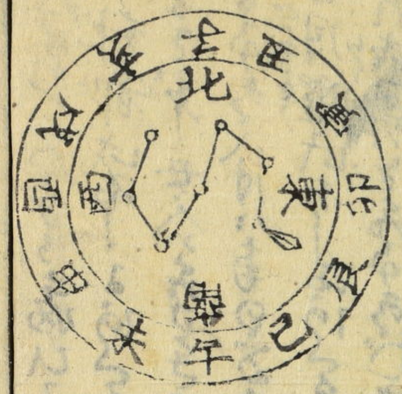
●新れいーーはのうーるる年いさひうんあ結家をそんするう又ハ
新れのうちうーるる人ま　ーーーーーー　ーーーーーー　ーーーーーー　ーーーーーー
ーーーーーー　ーーーーーー

和川をつゝむべし　親者をたんべしそう
◐今曜はれかしなるとのるを年はのこるを
よ穢ひみくるくぜつをもて人と所儀
るの元あつひていろ　伝人のちがつへ徒るの付新徳をえるの
内さびへ出ていろ　二月接まるを子ともに付てうんいあるを
さちつろ
○曜はれかしなるとのるをうしはまよう　財宝ふもをんのりて人も
多くかつへふ藤もをん昌するべ　まくばかしふのるい奏実の
るをまし　利徳十おるう伝んのはまいのしよう　但二月と冬病
ひるるくぜつをもつ　をてう
●火曜はれかしなるとのるをうしはさびをもてひろ　をかまど
あしく藤とをのをまるるをかひざひをりびをもて又をんまるる
もなるビ又教るのうちをうしよるくるを人ふをまるるを二三又七

十二月火るる病ひるるのるんみをくしてをそう
●計都はれかしなるとのるをうしはまつろ　安藤るのあべしまつて接
まるを事　女人の元をきつ　むべ　正三三六月病を任而有ぜつを接
するるを八月はまの日方九月は西方の巳十月ぬま人うぜつをつむて
○月曜はれかしなるとのるをうしはまよう　男人を男人の内よう接いる
され奏実を元るをんびさんも伝るをんあるを巳をてありひるう
ざるうをうをびを任ふをんんくの人はをんあるをんあべ　二月病るを
藤の内をんまるの任ふをまるるを　ひるるのう
○木曜はれかしなるとのるをうしはまよう　人正をまるをうて財宝をえる
るをまるをふの福はきをうせ大きるるはいく藤　都内をれるをうきるう
ぜをうしは大木をまるるがしのひとをきは病ひるれてるべ　正二六九月を
利徳を七月接本のうつ　ひをうを藤のうちはをんをまるるを藤　又をまひる
をるびうくまんぐをまるて　をのるべ　まびさるのうつをのるべ

えんぎ星の事

○けうやう時にはさつて月の数といつたとえば正月子のときふる時は子丑寅卯にはさつて板其月は正月一ツ目こゝのつさんさえすまゝ二月午のとゝはふるすゝバ午未申酉戌亥子丑寅卯辰巳午の目えのくさくさきより出ぢんをえらべてせうぶのいろんさえ（むろんば）揚るほうさんさえをしらべみてから植利をえるようたとえば寅の方くさえとゝ時は寅の方ゆくべし方はよくこのいてゝ



正月は　五ツ目　二月は　六ツ目
三月は　七ツ目　四月は　八ツ目
五月は　九ツ目　六月は　十目
七月は　十一目　八月は　十二目
九月は　一ツ目　十月は　二ツ目
十一月は　三ツ目　十二月は　四ツ目

しむべきこと

正月の年の数
うゝび二月のせつ
ゆの命ゝるべゝ
三月の長ゝ年す
四月は月のせつ
ゆゝれをまつゝび
又月六月の長
ゆ業ゝいとゝび
七月八月のせつ
ゆ男女のこゝの

男名改字

武義　百万　長平　文雄　理平　数人　健次　伊太郎
右の字をのく丸の字をもて本性金性よりゆ
女性ゆゆ者右女性去性ゆゆ

孝治　六郎　長忠　仁徳　重義　吉久　貞宏　仲
右の字をのく火性ゆゆ字をもて去性の人の名ゆ
火性ゆゆ者ゆ其外ゆゆ

定義　義久　九郎　春角　和歌　義久　徳義　義
右の字をのく木性ゆゆ字をもて火性の人の名ゆ
木性のくゆゆ者ゆ其外ゆゆ

甚　松　長義　松三郎　宗徳　清次郎　七郎　次郎　清次　佐　孫　市
右の字をのく金性ゆゆ字をもて水性の人の名ゆ
金性ゆゆ者ゆ其外ゆゆ

右和　源　友　宇　安　又　伊　虎　露　精　荒　清
右の字をのく土性ゆゆ字をもて金性の人の名ゆ
土性ゆゆ者ゆ其外ゆゆ

べうべ九月の生まれ
ふ酒つくるべうべ
出行る十月の
中ふ湯をいぶ
生べかあーべ
ゆきいとなる
十一月十二月の
生まれ男女の名
つけるべうべ

女名の字吉凶

芳沢 新林 稜勝 義門 利冨 新兵衛 麻 國 琥 蘭

右の字八月の字なれば木性の人の名ふけてよし
月の人ふハ吉なり生れ初めは

益 為 深 花 吉 章 巻 巳 久 破 龍 吟 彩 虎 極 動

右の字木性の字なれば火性の人の名ふけてよし
木性の人ハ吉なり生れ初めは

紀 儀 作 澤 湯 楽 作 絵 義 岩 市 町 蝶 林 義

右の字ハ火性なれば土性の人の名ふけてよし
火性の人ハもん吉なり生れ初めは

徳 民 愛 茅 鶴 安 安 愛 露 坂 閑 虫 順 与 重 辰

右の字ハ土性なれば金性の人ハ名ふけてよし
土性の人ハ吉なり生れ初めは

市 石 元 和 行 清 [illegible] 秋 良 [illegible]

右の字ハ金性なれば水性の人ハ名ふけてよし
金性の人ハもん吉なり生れ初めは